

現代社会入門「貿易ゲームで感じる現代世界経済」

準備

生徒が使う用具(はさみ, 定規, コンパス, 鉛筆, A4用紙, 模擬紙幣)

黒板の大判掲示物

記録シート

高校授業体験 平成22年8月19日(木)第7時限(15:50~16:30)		
現代社会入門「貿易ゲームで感じる現代世界経済」		
貿易ゲーム記録シート(マット)		
国名()	メンバー()	
	開始時の数量	終了時の数量
はさみ (技術力をあらわす)		
定規 (簡易機械をあらわす)		
コンパス (高度機械をあらわす)		
鉛筆 (人材をあらわす)		
A4用紙 (天然資源をあらわす)		
お金 (資本をあらわす)		
その他の品物		
貿易で利益を上げるために何が必要か? 何がなくて困ったか?		

参考文献

『新しい開発教育のすすめ方 増補版』 開発教育推進セミナー 編 古今書院 pp44-46

『参加型学習を取り入れた国際理解教育に関する研究 ―中・高等学校における国際理解教育の実践に向けて―』 広島県立教育センター

http://pfrq3.hiroshima-c.ed.jp/publish/ki/index_kk30.html

展開

時間	学習内容	学 習 活 動	指導上の留意事項	
8分	説明	<p>2人1組の10グループに分かれる。希望する国の名前を記した帽子を付ける。</p> <p>説明ペーパーを配布, ゲームの方法を知る。</p> <p>グループの代表者に封筒を渡す。</p>	<p>貿易ゲームの進め方を説明する。(国際銀行は教師が担当すること, 配布された用具以外を使ってはならないなど注意事項を確認する)。</p> <p>協力, 交渉, 他国との貿易により, 自国の利益を上げることを目指す。製品の規格と価格を板書する。</p>	<p>ゲームの進め方を理解できたか。</p> <p>直径12cmの円500ドラ 9cm12cm15cmの三角形 200ドラ, 7cm10cmの長方形100ドラ</p>
17分	貿易ゲーム	<p>まず封筒の中身を確認する。</p> <p>何を生産するか話し合う。 生産に何が必要か考える。 協力して生産し, 商品は国際銀行に売る。</p> <p>他国と交渉や協力も可能なことを告げ生産と貿易を活性化させる。</p> <p>4分経過後「正三角形も買い取ります」黒板に規格を板書。</p> <p>6分経過後「鉛筆削りを1回100ドラで貸すよ」</p> <p>9分経過後, 途上国に用紙を置いて「資源が発見されたよ」</p> <p>12分経過後 ゲーム終了を告げる。</p> <p>自分の席に戻る。 各国の合計金額を計算し記録シートに記入する。</p>	<p>封筒の中身がグループによって異なることがわかるが教師からは何も指示しない。 コンパスがなくても画鋏と紙と定規でコンパスの代用ができることに気づくか?</p> <p>国際銀行(教師)は商品を点検し買い取る。</p> <p>(資源を他国に売る場合A4用紙1枚いくらかで売るか, はさみをどのように調達するかなどを考えさせる)</p> <p>実は円より正三角形のほうがもうかることに気づくか?</p> <p>活動が活発でなくなったところでは, 状況の変化を告げる。 (新しい資源が発見されたとか商品の価格が変更になったなど)</p>	<p>足りないものがあって生産できない国はどう行動するか?</p> <p>道具を使って規格通りにつくられているか。(道具を使って正確につくられていないものは商品として認められない)</p> <p>一辺6cmの正三角形100ドラも買い取るよ</p> <p>状況の変化を理解し対応できたか。</p>
15分	話し合いとまとめ	<p>貿易で自国が利益を上げるために何が必要か, 何がなくて困ったかを各国が発表する。</p> <p>各国がどんなタイプの国であったかを説明する。日本に似ているのはどの国だろうか。</p>	<p>貿易で利益を上げるために重要と思われる条件は国により異なることを確認する。</p> <p>今回のゲームは資源を工業製品に加工する貿易を想定したものであるが, 実際の貿易では農業・観光・情報技術など多くの要素が考えられる。またこのゲームはあくまで1国を単位としたもので, 国内の富の配分はまた別の問題であることに留意する。</p>	<p>ゲームの内容をふまえて考えをまとめ発表できたか。</p>

資料

(封筒の内容物の種類と数量)

封筒に入っているもの	合計数量	あらわす要素	ア	イ	ウ	エ	オ	カ	キ	ク	ケ	コ
		国のタイプ	資源のある先進国	資源のない先進国	資源のある新興国	資源のない新興国	資源のある途上国	資源のある途上国	資源のある途上国	資源のない途上国	資源のない途上国	資源のない途上国
はさみ	6個	技術力	1	1	1	1	1	0	0	1	0	0
定規	8個	簡易機械	2	2	1	1	0	1	0	0	1	0
コンパス	3個	高度機械	1	1	0	0	0	0	0	0	0	1
鉛筆	16本	人材	3	3	2	2	1	1	1	1	1	1
A4用紙	30枚	天然資源	5	1	5	1	5	5	5	1	1	1
お金(100ドラ札)	220枚	資本	50	50	30	30	10	10	10	10	10	10
その他				輪ゴム		透明の袋					画鋏	

なお、若干その他のものも入っている。(輪ゴム、透明の袋、画鋏など。)それらも使ってよい。
内容物の種類と数量は『新しい開発教育のすすめ方 増補版』を参考に一部改変して設定した。

国名には愛称を付けている

ア＝アラガキ共和国

イ＝イナガキ共和国

ウ＝ウエノ共和国

エ＝エイクラ共和国

オ＝オオイズミ共和国

カ＝カトリ共和国

キ＝キムラ共和国

ク＝クサナギ共和国

ケ＝ケイン共和国

コ＝コイケ共和国

(注意事項)

道具は封筒の中のものを使う(自分の持ち物を使ってはいけない)。

グループ間の交渉や協力、貿易は可。

お金や資源や製品は各国間で取引してもよい。ただし粗悪品や偽札があっても当方は責任を負わない。

教師が国際銀行役をつとめ、製品を買い取る。

製品は正確なサイズでハサミで切っていないと製品として認められない。

製品の規格は次のとおりである。

直径12cmの円・・・500ドラ

9cm×12cm×15cmの直角三角形・・・200ドラ

7cm×10cmの長方形・・・100ドラ

当初はこの3つで開始し、途中で次のものを加える。

1辺6cmの正三角形・・・100ドラ

※直径12cmの円からはこの正三角形6個ができるので、より付加価値が高い商品(ただし生産にはより高度な機械と技術が必要)であることに気づくか？